

成果検証報告書

【成果指標の達成状況】

成果検証実施年度 平成26年度

| | | | | | | |
|--------------------|---|---|------------------|----------------|------------------|------------------|
| 市町村名 | 鳩山町 | | | | | |
| 提案事業名 | 古代工房～古代窯跡の里～地域おこし事業 | | | | | |
| 事業期間 | 平成24年 ～ 平成24年度 | | | | | |
| 成果指標 | (成果を検証する指標) ・ 古代窯跡関係イベント等への来場者数 (町への入込客数) | | | | | |
| | (成果検証の具体的な方法) ・ 窯跡イベント等 (町展示室見学も含む) の来場者数などを事業実施の前後で比較、その増減数及び原因についても分析・検証を行う。 ・ アンケート調査を実施し、より魅力的な観光文化資源としての活用を検証する。 | | | | | |
| | (成果の目標値に対する実績) | | | 達成度 | A | |
| | 従前値 (23年3月時点) | 850人 (年間平均) | 目標値 (26年3月時点) | 4,000人 (年間) | 実績値 (26年3月時点) | 3,529人 (25年度) |
| | (施設建設等の場合の実績) | | | | | |
| | 年間利用者数 (人) | (目標) (実績) | | 稼働率 (%) | (目標) (実績) | |
| 住民への公表状況 及び特記事項 | | ・ 町ホームページで目標値と結果について公表する。 ・ アンケート調査結果は、今後の改善策の検討材料とする。 | | | | |

【事業効果の整理・原因分析】

平成24年度 構成事業

| 構成事業名 | 事業効果 | 事業効果の概要及び原因分析 |
|-----------------|------|---|
| ① 古代窯跡観察施設整備事業 | ○ | ・ 赤沼古代瓦窯跡を、趣のある外観を活かしつつ、採光できる屋根、大きな窓及び出入口を整備できたことで、観光・観察に適した施設となり、これまで以上に多くの人を呼び込むことができ、古代窯の里のシンボルとして、大きなPR効果があった。 |
| ② 古代窯再現事業 | ○ | ・ 当町の誇る固有の文化資源である古代の窯跡を、当時と同じ姿に復元(再現)した古代窯を完成できた。完成後はこの窯を利用した各種事業を実施したり、町内外から多くの見学者も訪れ、大きなPR効果があった。 |
| ③ 「古代窯の里」体験学習事業 | ○ | ・ 復元された古代窯で、原料には地元の粘土、燃料の薪は周辺の里山からの間伐材を使用す、実際に瓦や須恵器を焼成する公開実験を実施し、復元古代窯の実使用確認ができたとともに多くの見学者が訪れた。 ・ また、「古代工房まるごと体験」として、ミニ瓦作りを開催し、単なる陶芸体験とは異なる古代工房の再現として多くの参加者があり、集客力を確認することができた。 ・ さらにオリジナルの古代瓦ストラップを記念品として配布したし、PR効果を高めた。 ・ 赤沼古代瓦窯跡とあわせて古代窯跡の里である鳩山の新たな文化的シンボルとして貴重な体験学習の場を提供でき、集客力やPRに大きな効果があった。 |

【成果検証の総括・改善策の検討】

| | |
|--------------------------|--|
| 実施事業について 十分に成果が認められた点 | ・ 古代窯を再現し焼成実験するというのは国内でもほとんど例のない事業であり、町内外で話題性が高かった。また、事業には多くの参加者を得られ、集客力の確認とともに大きなPR効果があった。 ・ また、現在窯跡群の国指定史跡化を進めており、その保存・活用の機運がさらに高まった。 |
| 実施事業について 成果が不十分である点 | |
| 成果検証を踏まえた 今後の改善策 | ・ 今回、多くのボランティアの協力を得ているが、地域おこし事業として、長期ビジョンで取り組めるよう、ボランティアや協力者の獲得を行ない、独自の座学や検定、さらには(仮称)町民学芸員を養成し、窯跡の解説や事業の企画・運営に加わってもらうよう検討していく。 |

(記入上の注意)

【成果指標の達成状況】

・達成度(A・B・C)の判断基準は次のとおりとする。

「達成度A」 目標値に対する実績値の伸び率が80%以上の場合
実績値 \geq (目標値－従前値) \times 80%+従前値

「達成度B」 目標値に対する実績値の伸び率が60%以上80%未満の場合
(目標値－従前値) \times 60%+従前値 \leq 実績値 $<$ (目標値－従前値) \times 80%+従前値

「達成度C」 目標値に対する実績値の伸び率が60%未満の場合
実績値 $<$ (目標値－従前値) \times 60%+従前値

【事業効果の整理・原因分析】

・事業効果(O・△・×)の判断基準は次のとおりとする。

「事業効果O」 事業効果の発現が十分に認められる

「事業効果△」 事業効果の発現が多少認められるが、不十分な点がある

「事業効果×」 事業効果の発現がほとんど認められない